指定文化財に関する調書

記入年月日	平成 24 年 2 月 22 日
種　　別	彫刻
名　　称	円空仏(役行者倚像)
員　　数	1 躯
所　在　地	宮代町字西原
所有者の住所・氏名	宮代町字中　　宝生院
管理者の住所・氏名	宮代町字中　　宝生院
経過及び現況	宝生院本堂に伝来。 法量：総高 36.5cm、像高 34.2cm、裾幅 17.4cm、胸奥 8.2ｃｍ。 形状：頭巾を被り、右手に錫杖、左手に独鈷杵を持ち、高下駄を履き岩座の上に腰掛けている。杉の厚い板材の木裏に彫刻し、背面は頭部以外は平らに仕上げている。顔や錫杖、足の指などを刻みだすなど細やかな彫りを見せている。 保存状態：頭部、顔の若干の摩滅、ろうそくの蝋の付着、背面の釘状の多数の小孔などが見られるものの、おおむね良好である。 製作時期：　江戸時代前半
指定理由	円空は江戸時代前半の僧で、各地を巡りながら一般に「円空仏」呼ばれる仏像を彫った。円空仏は、いわゆる「鉈彫り」といわれるそれまでの仏像には見られない独特の作風を持った仏像であり、そうした仏像の一つとして貴重であり、中部、関東、東北、そして北海道といった広範囲にわたってその作品は残され、円空の足跡の一端を知る資料としても貴重である。 現在、町域には 12 躯仏像があり、県内でもその数が多い。また小型のものが多いという地域性を示しており、来訪時の円空の作風がうかがえる資料である。 また、本像は役行者倚像であるが、県内でも少ないものである。
備　　考	現在、宮代町郷土資料館常設展示室に展示中（借用)。 ※引用・参考：埼玉県立歴史と民俗の博物館　2011　「特別展　円空　心を刻む　－埼玉の諸像を中心に－」

指定文化財に関する調書

記入年月日	平成 24 年 2 月 22 日
種　　別	彫刻
名　　称	円空仏（如来形立像）
員　　数	1 躯
所　在　地	宮代町大字須賀
所有者の住所・氏名	宮代町大字須賀　　真蔵院
管理者の住所・氏名	宮代町大字須賀　　真蔵院
経過及び現況	真蔵院本堂に伝来。 法量：総高 54.0cm、像高 45.7cm、臂張 19.5cm、胸奥 11.6cm。 形状：杉材の一木造。頭部は肉髻を作り出し、小鼻を大きく横に膨らませた鼻を刻んだ丸顔の顔の面を正面に向けている。目、眉はほぼ横一線並行に浅く彫っている。胸の前、袖の中で印を結び、蓮台上に立つ。ひれ状の衣は縦に規則正しく衣文線を刻んでいる。両足先が裾から出ている表現は珍しい。背面は、後襟から両肩上部辺りまでを彫り出し、他の部分は大きく割り放ち平板な面を表している。 保存状態：表面の煤け、細部のスレ傷、大腿部付近の切断面、岩座左角の剥離、台板の釘付け等後世の汚れ、痛みや補修の箇所があるが、おおむね良好である。 製作時期：江戸時代前半
指定理由	円空は江戸時代前半の僧で、各地を巡りながら一般に「円空仏」呼ばれる仏像を彫った。円空仏は、いわゆる「鉈彫り」といわれるそれまでの仏像には見られない独特の作風を持った仏像であり、そうした仏像の一つとして貴重であり、中部、関東、東北、そして北海道といった広範囲にわたってその作品は残され、円空の足跡の一端を知る資料としても貴重である。 現在、町域には 12 躯仏像があり、県内でもその数が多い。また小型のものが多いという地域性を示してお

	り、来訪時の円空の作風がうかがえる資料である。 　本像は、小型の像が多い中で町内で最も大きな像である。
備　　考	引用・参考 ・林宏一氏による「宮代町仏像調査報告」1999　引用・参考 ・埼玉県立歴史と民俗の博物館　2011　「特別展　円空　心を刻む　ー埼玉の諸像を中心にー」

指定文化財に関する調書

記入年月日	平成 24 年 2 月 22 日
種　　別	彫刻
名　　称	円空仏(菩薩形坐像 2 躯)
員　　数	2 躯
所　在　地	宮代町大字和戸
所有者の住所・氏名	宮代町大字和戸　　西方院
管理者の住所・氏名	宮代町大字和戸　　西方院
経過及び現況	いずれも、西方院の檀家より寄進されたものである。 1. 菩薩形坐像 法量: 総高 17.2cm、像高 12.6cm、膝張 7.7cm、台座奥 4.4cm 形状: 宝髻を高く結い、毛筋を刻んでいる。通肩に衣をまとい、膝上、袖中で両手を合わせて印を結び、蓮台上に坐している。背面は宝髻部分を除き、割り放ったままである。 保存状態: 宝髻部から顔の鼻先など表面の一部に欠損が見られるが、おおむね良好である。また、後世厨子が作られ、像は台座にはめ込まれている。 製作時期:　江戸時代前半 ２. 菩薩形坐像 法量: 総高 12.1cm、膝張 7.7cm、台座奥 4.4cm 形状:　1 とほぼ同じ大きさのもの。宝髻を高く結い、毛筋を刻んでいる。通肩に衣をまとい、膝上、袖中で両手を合わせて印を結び、蓮台上に坐している。背面は粗くはって平らに整えられている。前面に袖を垂らす裳懸け形式。 保存状態: 顔の部分等に若干の摩滅が見られるものの、良好である。 製作時期: 江戸時代前半
指定理由	円空は江戸時代前半の僧で、各地を巡りながら一般に

	「円空仏」呼ばれる仏像を彫った。円空仏は、いわゆる「鉈彫り」といわれるそれまでの仏像には見られない独特の作風を持った仏像であり、そうした仏像の一つとして貴重であり、中部、関東、東北、そして北海道といった広範囲にわたってその作品は残され、円空の足跡の一端を知る資料としても貴重である。 現在、町域には 12 躯仏像があり、県内でもその数が多い。また小型のものが多いという地域性を示しており、来訪時の円空の作風がうかがえる資料である。 1 は、当所付近の小像の円空仏の特徴的形状を示している。2 は、全面に袖を垂らす裳懸け形式で、県内の小像でこの形式のものは現在では他に確認されていない。
備　　考	元々は、いずれも西方院の和戸地区の檀家の個人蔵。 ※引用・参考：埼玉県立歴史と民俗の博物館　2011　「特別展　円空　心を刻む　－埼玉の諸像を中心に－」

指定文化財に関する調書

記入年月日	平成 24 年 2 月 22 日
種　　別	彫刻
名　　称	円空仏(恵比須天立像 2 躯、大黒天立像、護法神像)
員　　数	4 躯
所　在　地	宮代町大字和戸
所有者の住所・氏名	宮代町大字和戸　日下部家
管理者の住所・氏名	宮代町大字和戸　日下部家
経過及び現況	いずれも、日下部家に伝来。 1.恵比須天立像 法量: 像高 15.4cm、臂張 7.4cm、台座奥 3.9cm 形状: 平礼烏帽子を被り、左手に大きな鯛を抱え、右手は腹の前で左手を支えるような位置に置き、直立する。両手先とも袖中にある。衣文線は簡潔に線で表している。背面は平らに作られている。檜の板材を用いており、背面右下に節がある。 保存状態: 烏帽子部、衣文部等に痛みがあるもののおおむね良好である。 製作時期:江戸時代前半 2.恵比須天立像 法量: 像高 11.4cm、臂張 6.7cm、腹奥 3.3cm 形状: 烏帽子を被り、左手に大きな鯛を抱え、右手は腹の前で左手を支えるような位置に置き、直立する。衣文線は裾に縦線を刻んでいるのみである。背面は平らに作られている。檜材を用いている。 保存状態: 烏帽子部、顔、衣文部等に痛みがあるものの、おおむね良好である。 製作時期:江戸時代前半 3.大黒天立像 法量: 総高 11.0cm、台座幅 5.4cm、台座奥 2.9cm 形状: 頭巾を被り、右手に小槌と思われる持物を、

	左手に大きな袋を背負って俵と思われる台座に立っている。背面は、頭部から両肩辺りまでを彫り出し、以下平らに作られているが側面に丸みをもたせている。杉材を用いている。 保存状態：全体に強く洗ったとのことで、摩滅が見られる。 製作時期:江戸時代前半 4.護法神像 法量：像高 8.0cm、像幅 4.2cm、像奥 2.4cm 形状：頭部を尖らせ、鼻筋がとおり、口が尖っている。衣文線を縦に刻む。背面は大きくはつって三面に仕上げられている。檜材を用いている。背面に墨書痕を認めるが判読できない。 保存状態：若干磨耗等の痛みが見られるものの良好である。 製作時期:江戸時代前半
指定理由	円空は江戸時代前半の僧で、各地を巡りながら一般に「円空仏」呼ばれる仏像を彫った。円空仏は、いわゆる「鉈彫り」といわれるそれまでの仏像には見られない独特の作風を持った仏像であり、そうした仏像の一つとして貴重であり、中部、関東、東北、そして北海道といった広範囲にわたってその作品は残され、円空の足跡の一端を知る資料としても貴重である。 現在、町域には 12 躯仏像があり、県内でもその数が多い。また小型のものが多いという地域性を示しており、来訪時の円空の作風がうかがえる資料である。 1～4 はいずれも小型の像である。ことに 4 の護法神像は町内で最も小さな像である。また神像としても町内唯一のものである。
備　　考	それぞれ宇宮神社別当寺で元修験寺院であった本覚院(日下部家)に伝来。 護法神像は、現在、宮代町郷土資料館常設展示室に展示中（借用)。

	※引用・参考：埼玉県立歴史と民俗の博物館　2011　「特別展　円空　心を刻む　－埼玉の諸像を中心に－」

指定文化財に関する調書

記入年月日	平成 24 年 2 月 22 日
種　　別	彫刻
名　　称	円空仏（阿弥陀如来坐像、菩薩形坐像）
員　　数	2 躯
所　在　地	宮代町大字和戸
所有者の住所・氏名	宮代町大字和戸　鈴木家
管理者の住所・氏名	宮代町大字和戸　鈴木家
経過及び現況	鈴木家に伝来。 1.阿弥陀如来坐像 法量：総高 17.5cm、像高 12.1cm、臂張 6.1cm、裾奥 3.8cm 形状：通肩に衣をまとい、膝の上で弥陀の定印を結び蓮台の上に坐している。印相と背面の墨書から阿弥陀像であることがわかる。頭部は高い六面の帽子状に作り、髪際のすぐ上に横線を刻む。杉材を用いている。背面は頭部を除いて割り放ったままで、「(凡字、キリーク：阿弥陀)上品上生光明真言阿弥陀」の墨書がある。 保存状態：後世に彩色されている。 製作時期:江戸時代前半 2.菩薩形坐像 法量：総高 17.7cm、像高 13.1cm、臂張 6.4cm、裾奥 3.8cm 形状：通肩に衣をまとい、膝上、袖中で印を結び蓮台の上に坐しているところから菩薩と考えられる。1 の阿弥陀如来坐像に比べ、頭部の形がより細く、毛筋を表した宝髻と思われる。背面は、宝髻部以外は割り放ったままで、三条の衣文線が刻まれている。 保存状態：後世に彩色されている。また、一部に傷を認める。 製作時期:江戸時代前半

指定理由	円空は江戸時代前半の僧で、各地を巡りながら一般に「円空仏」呼ばれる仏像を彫った。円空仏は、いわゆる「鉈彫り」といわれるそれまでの仏像には見られない独特の作風を持った仏像であり、そうした仏像の一つとして貴重であり、中部、関東、東北、そして北海道といった広範囲にわたってその作品は残され、円空の足跡の一端を知る資料としても貴重である。 現在、町域には 12 躯仏像があり、県内でもその数が多い。また小型のものが多いという地域性を示しており、来訪時の円空の作風がうかがえる資料である。 1、2 ともほぼ同じ形をした像である。ことに 1 は、背面に明瞭な墨書を認める町内唯一のものである。
備　　考	※引用・参考：埼玉県立歴史と民俗の博物館　2011　「特別展　円空　心を刻む　－埼玉の諸像を中心に－」

指定文化財に関する調書

記入年月日	平成 24 年 2 月 22 日
種　　別	彫刻
名　　称	円空仏(菩薩形立像)
員　　数	1 躯
所　在　地	宮代町大字和戸
所有者の住所・氏名	宮代町大字和戸　菊地家
管理者の住所・氏名	宮代町大字和戸　菊地家
経過及び現況	菊地家に伝来。 1.菩薩形坐像 法量: 総高 14.7cm、像高 10.5cm、臂張 5.4cm、裾奥 3.7cm 形状: 宝髻を高く結い、毛筋を刻んでいる。通肩に衣をまとい、膝上、袖中で印を結び蓮台の上に坐している。背面は、宝髻部以外は割り放ったままであるが、体と台坐の境界を刻み、縦に数条の線を刻んでいる。 保存状態: 火を被ったと思われ、表面が荒れている。 製作時期:江戸時代前半
指定理由	円空は江戸時代前半の僧で、各地を巡りながら一般に「円空仏」呼ばれる仏像を彫った。円空仏は、いわゆる「鉈彫り」といわれるそれまでの仏像には見られない独特の作風を持った仏像であり、そうした仏像の一つとして貴重であり、中部、関東、東北、そして北海道といった広範囲にわたってその作品は残され、円空の足跡の一端を知る資料としても貴重である。 現在、町域には 12 躯仏像があり、県内でもその数が多い。また小型のものが多いという地域性を示しており、来訪時の円空の作風がうかがえる資料である。
備　　考	※引用・参考：埼玉県立歴史と民俗の博物館　2011　「特別展　円空　心を刻む　－埼玉の諸像を中心に－」

指定文化財に関する調書

記入年月日	平成 24 年 2 月 22 日
種　　別	彫刻
名　　称	円空仏(菩薩形立像)
員　　数	1 躯
所　在　地	宮代町大字和戸
所有者の住所・氏名	宮代町大字和戸　谷澤家
管理者の住所・氏名	宮代町大字和戸　谷澤家
経過及び現況	谷澤家に伝来。 1.菩薩形坐像 法量: 総高 12.5cm、像高 8.5cm、膝張 5.7cm、膝奥 3.2cm 形状: 宝髻を高く結い、毛筋を刻んでいる。通肩に衣をまとい、膝上、袖中で印を結び蓮台の上に坐している。杉材の木表側に彫刻している。背面は、宝髻部以外は割り放ったままで三条の衣文線を刻んでいる。 保存状態: 頭部を中心に軽く火を被ったと思われ、表面が摩滅している。 製作時期: 江戸時代前半
指定理由	円空は江戸時代前半の僧で、各地を巡りながら一般に「円空仏」呼ばれる仏像を彫った。円空仏は、いわゆる「鉈彫り」といわれるそれまでの仏像には見られない独特の作風を持った仏像であり、そうした仏像の一つとして貴重であり、中部、関東、東北、そして北海道といった広範囲にわたってその作品は残され、円空の足跡の一端を知る資料としても貴重である。 現在、町域には 12 躯仏像があり、県内でもその数が多い。また小型のものが多いという地域性を示しており、来訪時の円空の作風がうかがえる資料である。
備　　考	※引用・参考：埼玉県立歴史と民俗の博物館　2011　「特別展　円空　心を刻む　－埼玉の諸像を中心に－」